



梅
藏

梅
藏
了

四

~ 13
3572
4



門 へ 13
號 3572
心 4



辨庵丁書一四

阿多比

色之味深極難兼行辨辨法着

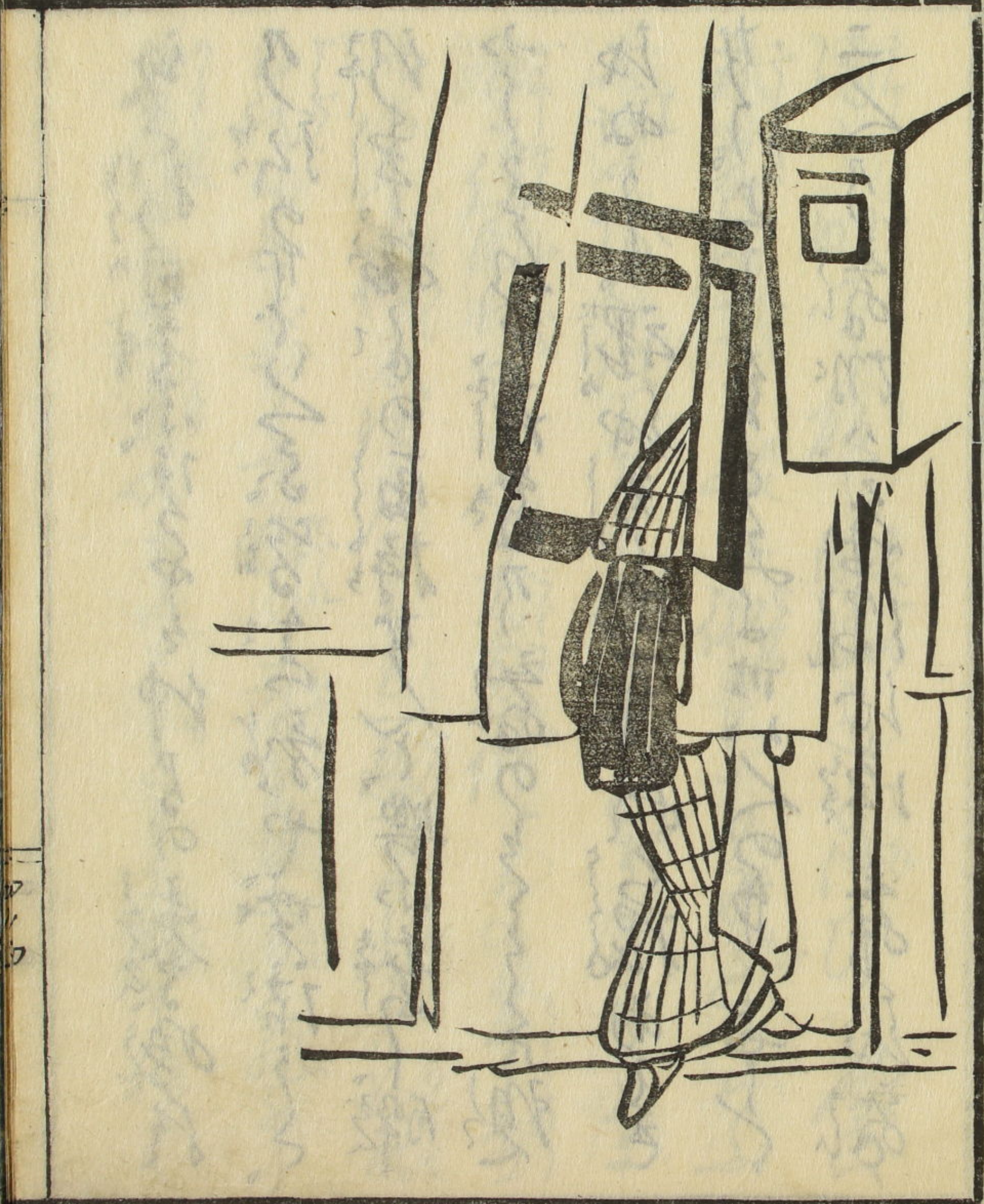
店之辨川日志海宿禰

りらるるは流動一いまごかふりふ

乃くも阿もさるる優也いふいふ

まらるるまらるるまらるるのまらるる

中野 大學 図書館
34.6.3 燹
藏 書



いづれ目さるふはるを仲るのまきぬ
乃弘めたるくふ皆をた教や世信う
乃事持子の雨持たんと興ふ事解
かうさぬをたぬるをのくくく現
ゆぬう。禮ゆきふこたぬ根あるま
たり。上らうらうみる世人の中か
二人乃をたかハハ味深は深まふゆ
い

酒と酌く飲し配膳をて侍りく慶い
産家なをるを思ふ御たりもあはるり
大城の持をぬてを御もすまきこらま
身保所代のみんうま意仲たるの年あ
世はも持く江戸もた二廻りうか
口はなまきとまら六辨が痛まゆり
名はあう又まらそのまらるるね

ちうくとも 漢書ハ 華容 漢乃 西 漢
之を 郭 母の 紅く 紅 解の 弁本 稿く
事たるよ ありま 今この 町 以ハ 縮 減 して
等も 日 ありも 今 あり 結 行 義 あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり

後 あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり

石橋 緋若子の巻ぐつとてきり

つらつら

ゆきくぬきぬき

おんまも子お露の極彩も海小女松
が押画の金身成奥しよハ燈籠乃竹
ほのくもさも種あつらもさるお目
行世のむす種あまづらとらく片例ハ

押さしひささるれ飯志いしき

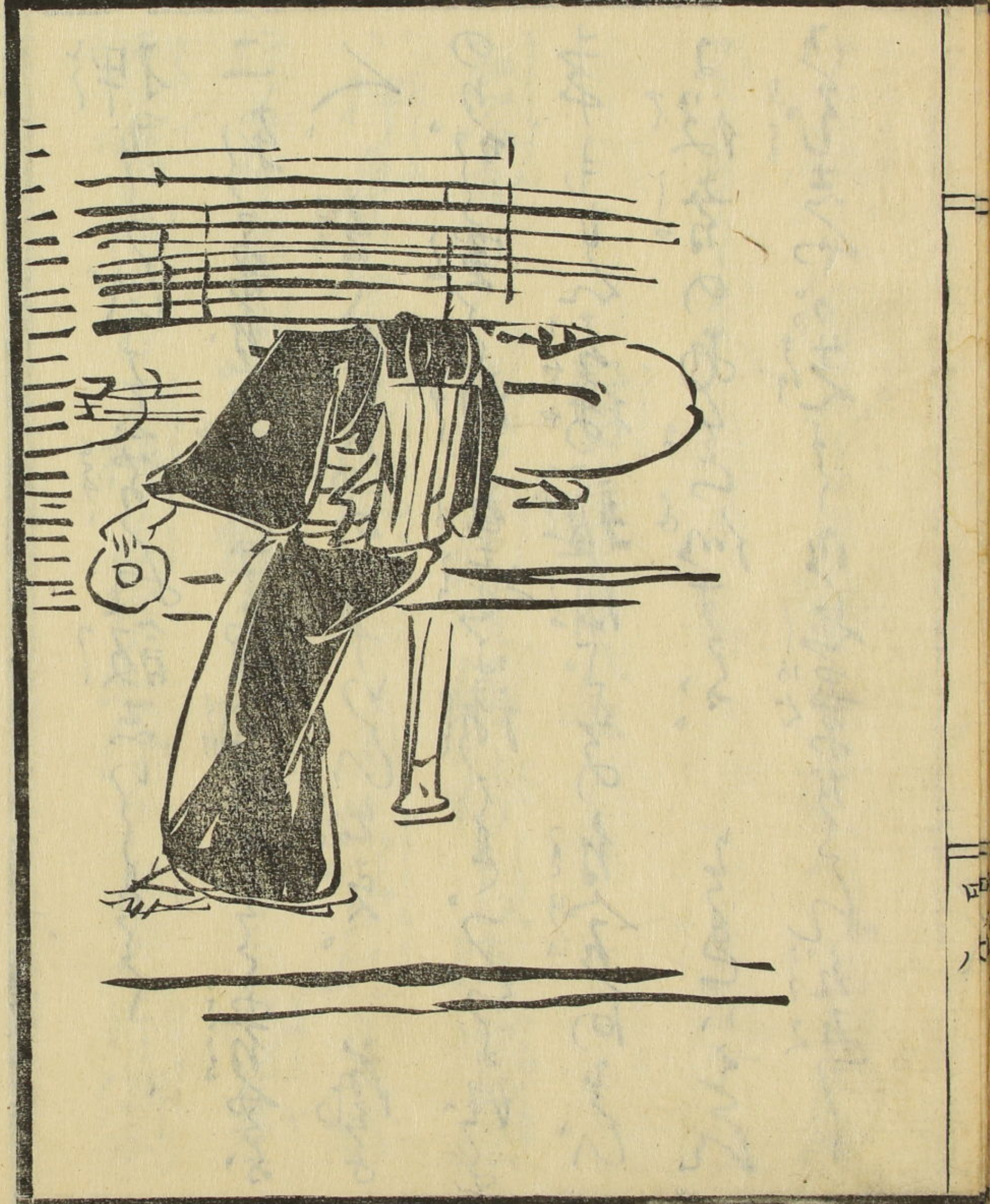
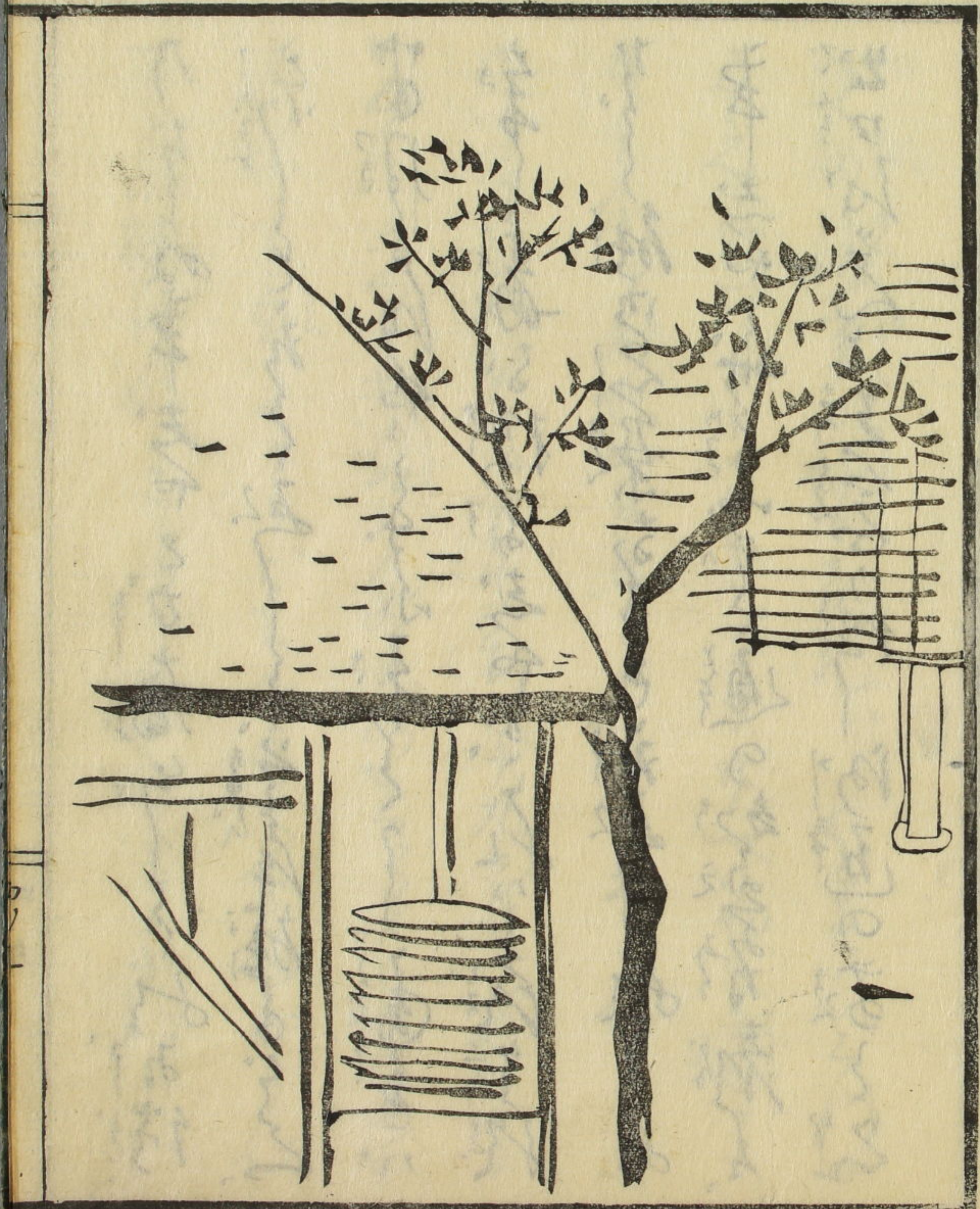
二軒あまの女よま屋園のまきりあふ
くまこめ房の事りいおま。 藤子

のりが実りあまは清くまづらあま

まもりんあま種あまの自合何とび

よ没音のあま似すふ。 ままいさ

ひむさやあましよのあまあま



乃ぢぬ事ぢやと力痛^{ちからいた}や〜
 新^{しん}〜とあ〜
 中^{ちゆう}月^{げつ}〜
 事^{こと}〜
 半^{はん}〜
 出口^{でぐち}〜

くの^{くの}流^{なが}〜
 人^{ひと}〜
 七^{しち}〜
 口^{くち}〜

やまの九のきりやうなりくもまじや
り

境つるま

鈴の鳴る子氏の小使も自ら
と

と一店のみた。

か梅 粹 庖丁 半 四

